



後輩ができれば、 まず読んでほしい1冊

評者 小杉俊介 飯塚病院 総合診療科

「指導医」と聞くと、「自分なんかまだ指導医とは言えないし」と思われる若手医師も多いと思います。しかし、研修医1年目であっても学生が実習に来ることもあるし、研修医2年目は1年目から気軽に相談を受けることは日常茶飯事だと思います。このように若手医師も、いろいろなシチュエーションで実は「指導(教育)」をしています。

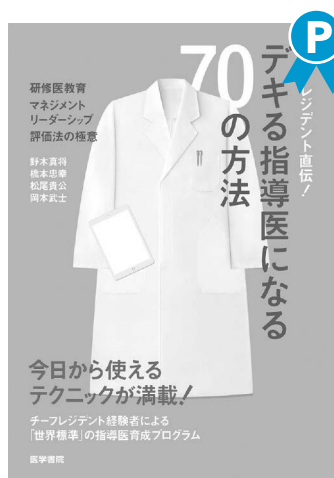
初期研修1年目から役立つリアルな“教育”本

しかし本邦では、たとえば厚生労働省が行っている指導医講習会は卒後7年目以降の医師が主な受講対象者となっており、若手医師が「指導」について体系的に学ぶ場はあまりなく、「指導」について教わることなく見様見真似で行っていることが多いと思います。

書籍も、医学教育の概念的なことが書かれたものはたくさん出てはいますが、いずれも「指導医」レベルを想定しており、若手医師が遭遇しやすいシチュエーションや具体的な対応策などが記載されたものはあまりありませんでした。

本書は、そういった若手医師がまず疑問に思うことや実際に遭遇しそうなシチュエーションを、日本・米国どちらでもチーフレジデント(研修医の代表)を務めた野木真将先生を筆頭に、飯塚病院と聖路加国際病院という日本の研修医教育を牽引する病院でチーフレジデントを務めた橋本忠幸先生・松尾貴公先生・岡本武士先生が、実際の自身の経験と医学教育の理論やエビデンスをミックスした形で、わかりやすく記述されています。

読者(若手医師)に比較的近い卒後10年目を超えたばかりの先生方が執筆しているため、著者らが指導医へと成長していくなかで抱いた疑問や調べたことなどは、若手医師の疑問や困り事に直結しており、そういったものが網羅された1冊だと思います。「後輩ができた(すでに後輩がいる)」医師は、ぜひ一度読まれることを強くお勧めします。



チーフレジデント直伝！ できる指導医になる 70の方法

研修医教育・マネジメント・
リーダーシップ・評価法の極意

野木真将、橋本忠幸、
松尾貴公、岡本武士＝著

定価：3,960円
A5判・352頁／医学書院／2022
[ISBN978-4-260-03655-9]